資源管理型漁業推進総合対策事業調査

(広域回遊資源：太平洋北ブロック)

(抄 録)

蛸名政仁・小泉広明

管理計画策定調査（対象種 ヒラメ；対象海域 津軽海峡、陸奥湾、太平洋）

1. 漁獲統計調査（資料：県統計）

- (1) 平成6年のヒラメ漁獲量は、534トンで昨年より85トン増加した。
- (2) 平成4年から6年までのヒラメ漁法別銘柄別漁獲量を整理した。
- (3) 各年の漁法別漁獲量は、以下のとおりであった。

単位：kg

年・漁法	刺網漁業	定置網漁業	一本釣漁業	小型底曳網漁業	その他漁業	合 計
平成4年	148,337	147,912	31,669	95,564	166	423,684
平成5年	153,521	168,564	38,134	89,434	241	449,894
平成6年	172,326	230,939	44,603	86,457	547	534,872

2. 調査船調査

(1) 生存率調査

刺網漁業で漁獲されたヒラメを再放流した場合の生存率を推定するための調査を昨年に引き続き、調査した。（調査方法は、ドラム式揚網で船上に揚網された刺網から速やかにヒラメを取り外し、船の活魚水槽に収容し、帰港後市場の活魚水槽内に移し、5～6時間後、生死を鰓呼吸の有無により判定した。）

生存率は、2ヶ年間の平均で96.3%であった。このような方法によると、高い生存率が期待できることから、そうした努力、或いは現在使用されているドラム式揚網機から魚を弱らせない揚網漁具への転換等の改善が必要と思われた。

(2) 標識放流調査

泊漁協において生存率調査で再放流される個体に標識（チューブ・ディスク）を装着し、放流後の移動、成長等を調査した。835尾放流し、これまでに86尾が再捕された。

放流後の移動は、北方向では関根浜、南方向では、三沢までみられるものの、約85%の個体が放流後2ヶ月以内に放流点から15km以内の海域で再捕されていた。

また、成長に関しては、放流直後から全長、体重共に順調に増加する傾向を示し、放流後400日前後経過し再捕された個体の体重増加量は、1日当たり1.25g、1年で455gであった。

3. 生物資源調査

- (1) 生物特性値を把握するため、資料の不足している大型の個体の精密魚体測定を実施した。

発表誌名：平成6年度広域資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 平成7年3月 青森県（太平洋北ブロック）